

企業名

株式会社ナベル

金融機関名

百五銀行

Eco Cubic Filter

(放電加工機用フィルター)



新規事業である高性能が特徴の
エコキュービックフィルター

知財・事業の概要および知財ビジネス報告書作成の目的

製造業

特許・商標・意匠

レーザー加工機、光学分野など、多分野においてジャバラの製造・販売を行う。長年培ってきたジャバラ製造ノウハウを活かして従来の受注生産型のビジネスモデルに加え、消耗品ビジネスである放電加工機用フィルターの新規事業立ち上げ・拡大を図っている。知財ビジネス報告書においては、新規事業の事業モデルと事業推進にあたって必要となる投資金額を踏まえ、中長期的な将来CF計画、投資回収計画について取りまとめた。

知財ビジネス報告書への記載概要

過去～現在
(As-Is)

知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する

自社開発の生地を使用した光学用ジャバラを中心に製造販売を行っていたが、市場縮小を機に他業種への転換を図りレーザー加工機用ジャバラにおいて、90%の国内シェアを獲得し、ニッチトップ戦略を図った結果、プライスメーカーという立ち位置を確立した点を整理した。

現在～将来
(To-Be)

将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する

長年培ってきたジャバラ製造ノウハウを活かし、消耗品ビジネスである放電加工機用フィルターの新規事業立ち上げ・拡大にあたっての課題として、製品化技術開発、生産効率向上、サードパーティ対策、プライスメーカーとしての事業展開について整理した。
課題解決の方向性として、模倣対策と共に、高性能化に向けたフィルター開発とフィルター主要工程の自動化へ取り組み、目標としている価格設定の妥当性を示したうえで、国内外の市場に販路拡大を図るという方針を検討した。

将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する

将来像の実現に向け、開発・生産、知財戦略の検討に加え、新規事業の事業モデル（収益構造、コスト構造）と事業推進にあたって必要となる投資金額を踏まえた上で、中長期的な将来CF計画、投資回収計画、リスク対応策について取りまとめた。

作成を支援した
機関名・氏名

明和総合特許デザイン事務所 藤掛 宗則

百五銀行からの評価結果

知財ビジネス報告書を通じて認識した強み	改めて認識した点	戦略論としての知財活用方針が優れている点を再認識した。知財戦略の目的として、市場競争力の向上、金融機関からの与信向上、人材育成の3点を掲げており、長年に亘ってノウハウを蓄積している点が改めて同社の強みであることを認識することができた。
	新たに認識した点	これまで蓄積したノウハウや権利を活用し、新事業分野でもニッチトップへと成長できる可能性を大いに秘めている点。顧客の困りごと起点での新製品・新技術の創出、素材選定・開発と知的財産権・製法ノウハウ、品質管理が競争力の源泉となっていることを認識した。
知財ビジネス報告書を通じて認識した課題	改めて認識した点	組織内の意識差により、計画の遅れや、情報管理上のリスクが生じる可能性がある点を認識した。
	新たに認識した点	各論的な視点から、「製品化技術開発」「生産効率向上」「模倣対策」「プライスメーカーとしての事業展開」それぞれの点で課題が生じる可能性があることを認識できた。
将来のビジネス展開に向け金融機関としてサポートできる点		<ul style="list-style-type: none">・ブランド力の強化を課題の1つとして挙げていることを勘案し、知財×ブランディング両面に寄与できるような新たな融資商品の開発を進めていく。・今後の設備投資について、活用可能な補助金案内や申請資料作成支援などの補助金支援を展開する。・生産工程の自動化へ向け、スタートアップ企業との連携も視野に入れ、当行からの紹介による接点拡充に繋げる。

ナベル社からのコメント

知財ビジネス報告書の作成を通じて得られた新たな気づきがあったか	メーカー向け製品からユーザー向け製品への取り組みにあたっての特許の内容、価格体系、注意事項、販売戦略など参考となった。
知財ビジネス報告書をどう活用できそうか	客観性を持った資料として社内で共通認識を得る事が出来る。